

令和4年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

(2022. 4. 1～2023. 3. 31)

《R4. 3. 24》

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和4年度は、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の2年目となり、第4期中期経営計画に基づいて引き続き、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

さらに、信楽窯業技術試験場が陶芸の森の隣接地に移転することから、より一層連携を深め、陶器産業の振興支援策を進める。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行など、先行きが不透明な部分もあるが、新しい生活様式に対応した事業展開が求められる中で、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう、新たな取組についても模索する。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

(1) 陶芸作品の野外展示

レジデンス作家の作品を野外展示し、陶芸の森という名にふさわしい、自然の中で鑑賞を楽しむことができる空間づくりを行う。

令和4年度からは、空間デザインなどの専門家の助言のもと、魅力ある展示エリアの再構築を計画的に進める。

また、整備が完了したエリアから順次、鑑賞情報を提供する。インスタグラムの撮影ポイントや鑑賞コースをホームページで紹介するなど、情報発信に努め、オープン・エア・ミュージアムとしての機能強化を図る。

(2) 窯の広場の活用

穴窯を始め、令和2年度に築窯したトレインキルンなど薪窯8基により、つくり手である陶芸家のニーズに応え、活動意欲の向上に繋げる。

また、来園者には活きた薪窯を見ていただくとともに、薪窯がCO₂排出実質ゼロ（カーボン・ニュートラル）に寄与する窯であることを紹介するなど、陶芸の森の特徴として園内散策のポイントとする。

(3) 花咲く公園の整備

「火鉢ロード」と命名した歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を設置し、来園者にレトロな雰囲気を感じていただく。

また、園内の様々な花木や草花を適切に管理し、四季折々の姿を楽しんでいただく。

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらう陶芸制作講座の開催や、作家が直接販売するマーケット、一般参加型のイベントを開催・誘致するなど、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創る。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や穴窯による作品の制作など、幅広いテーマを取り上げるとともに、団体向けには目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

講 座 名	開催時期	内容（募集人数）
ア. 実技講座シリーズ		
新①キムチ甕オングをつくろう！ （陶芸館企画展関連講座）	令和4年10月9日（日）	手びねりで甕を制作 （15名）
②ミニ窯をつくろう！	令和5年3月12日（日）	ぐい呑み数個が焼けるミニ窯制作（15名）
③ラク焼講座	令和4年5月22日（日） 令和5年3月19日（日）	茶碗制作とラク焼焼成技術習得（各15名）
④練り込み技法でうつわをつくろう！	令和4年6月26日（日）	練り込み技法による皿・鉢制作（15名）
新⑤七輪で粘土をやいてみよう！	令和4年6月12日（日）	制作・七輪焼成を体験（15名）
イ. 穴窯体験講座 （初級） 〃 （中級） （上級） （焼成）	令和4年11月13日（日） 11月27日（日） 10月30日（日） 10月15日（土）16日（日） 12月初旬	信楽在住陶芸家指導による作品制作・穴窯焼成体験 （初級2回：各15名） （中級上級：各15名）
ウ. 穴窯焼成クラス （説明会） （焼成）	令和4年9月4日（日） 令和5年3月下旬	穴窯講座経験者を対象とした穴窯焼成（14名）
エ. 登り窯講座 （初級） （中級） （上級） （焼成）	令和4年9月4日（日） 10月2日（日） 9月10日（土）11日（日） 10月下旬	信楽在住陶芸家指導による作品制作・登り窯焼成体験（各15名）
オ. 登り窯グループ参加の部	適時	グループ参加による登り窯焼成（8グループ）
カ. トレインキルン焼成講座	令和4年8月～	築窯したトレインキルンの焼成技術習得（15名）
キ. 大学連携講座「京都芸術大学通信学部陶芸スクーリング in 信楽」	令和4年8月中 （土）（日）2日間	受講学生参加による作品制作とまちなか見学

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森が持つ広大な芝生広場を活用し、信楽セラミック・アート・マーケットなどを自主開催するとともに、来園者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。

なお、自主開催時の新型コロナウイルス感染症対策については、会場内の消毒液の設置や来園者向け検温ステーション開設など万全を期するとともに、その他の場合においても、主催団体の責任で対策を講じることを前提に実施する。

イベント名等	開催時期等	主 催
ア. 第16回信楽作家市 in 陶芸の森の誘致	令和4年5月2日(月)～5日(木祝)	信楽作家市実行委員会
イ. 第27回信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催	令和4年9月17日(土)～19日(月祝)	公益財団法人 滋賀県陶芸の森
ウ. わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催	令和4年12月4日(日)	公益財団法人 滋賀県陶芸の森
エ. 信楽陶芸の森フォトコンテストの実施	令和4年4月1日～ 令和5年1月31日	公益財団法人 滋賀県陶芸の森

※「野外音楽イベント SIVEL WARS」および「しがらき森のクラフトフェスタ」の誘致については、主催者判断により中止

(3) 観光および集客促進のための広報活動

陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客の集客に努めるため、効果的・効率的な情報発信を行う。

- ホームページ、SNS、パブリシティを活用した広報の充実
- 甲賀市や地元観光協会、びわこビジターズビューロー等と連携したPR
- 最新の映像技術を活用したバーチャルミュージアムの充実
 - ・令和3年度に開設した陶芸館のアーカイブサイトに、所蔵品の名品を順次紹介する。
 - ・3Dや360°撮影した高精細のVR映像を計画的に制作し、インターネットによる展覧会の開催を試みるなど、新しい美術館・展覧会のあり方を模索する。

(4) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民に陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、文化の向上を図るため、信楽産業展示館多目的ホールの貸出を適正に行うとともに、陶芸に関する交流の場とするため、講演会や講座の開催など陶芸の森の各種事業を通じて、多目的ホールの活用を図る。

3. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

陶芸の森の事業展開をより一層推進していくため、「陶芸の森やきもの振興基金」への寄附について、各種事業の実施時やホームページなどで周知を図る。

なお、令和4年度からは、寄附者への税控除制度以外の独自の特典創設など、各種団体、法人、個人からより幅広く支援が得られるよう、陶芸の森サポーター制度を導入し、寄附金収入の増額に繋げる。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。
また、令和4年度に信楽窯業技術試験場が陶芸の森隣接地へ移転整備されることを記念し、陶芸の森との連携強化の一環として、試験場の業績を取り上げた展覧会を開催する。

(1) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」

＜開催期間＞令和4年4月1日(金)～6月9日(木)(60日間:令和3年度からの継続)

モダンデザインが戦後の社会に受容されてゆく中で、日本の手仕事(工芸)は輸出振興や産業など幅広い視点から見直された。やきもの産地への影響も大きく、民藝運動や工業デザインなどの動向と接点を持ちながら、日本的な美意識と産地の特性を活かした、独自のスタイルが探求されている。戦後デザインは信楽にどのような経緯でもたらされ、いかに受容されてきたのか。

本展では、信楽を始め、各陶産地で大きな足跡を残した陶磁デザイナー、日根野作三を軸にその動向を検証するとともに、これからの展望を模索する。

(2) 特別展「土に託されたきらめき—子どもたち×アーティスト／セラミックス最先端」

＜開催期間＞令和4年6月25日(土)～9月4日(日)(62日間)

令和4年度は、学校との連携による教育プログラム「つちっこプログラム」を展開してきた20年目に当たる。この間、15万人の子どもたちが体験してきた年月を振り返り、子どもたちの感性豊かな土による作品や、このプロジェクトに関わった陶芸家、アーティストたちの作品を紹介する。

また、ロケット部品から人工骨まで、やきものが私たちの暮らしを支えていることは、あまり知られていない。そこで、企業の協力により土を素材とする産業製品を併せて展示し、子どもたちにやきものの幅広い可能性を知ってもらう機会とする。

(3) 特別企画「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート」

＜開催期間＞令和4年9月17日(土)～12月18日(日)(80日間)

激変する歴史の中で多文化と交流しながら、独創的な世界観を生み出した韓国アート界は、静の中に潜められる動のエネルギー、「静中の動」の精神が垣間見える。なかでも、その精神性を象徴するやきものは、近年ジャンルを問わず、アーティストたちに共通する美・文化のキーワードとして用いられている。朝鮮白磁の中で満月のような形の「満月壺(MOON JAR)」は、その代表格といえる。

本展では、世界的に注目されている韓国のやきものの根底にある精神性とその魅力について、日本との関わりを通じて浮き彫りにする。

(4) 特別企画「湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの」

＜開催期間＞令和5年3月11日(土)～6月25日(日)(92日間:令和5年度へ継続)

湯呑茶碗は、日本人に最も親しみのある「やきもの」である。家庭や職場など生活の様々な場面で用いられる、個人専用の湯呑茶碗や夫婦茶碗の存在は、日本独特の器文化であるといえよう。

特に、明治末期から昭和前期は、日本人が最もやきものに親しんだ時代であり、日本各地の名所や名物を、多彩な技法や技術を用いて表現した、その小さな器には、当時の名工や作家の技とこだわりが凝縮されている。

本展では、「坂口恭逸湯呑コレクション」を紹介し、日本人がこよなく愛した湯呑茶碗の魅力に迫る。

(5) 陶芸館ギャラリー企画展

学校のカリキュラムに対応した「なるほどコーナー」の設置や、夏休みの子ども向け教育普及事業の成果展を実施し、家族連れの集客や校外学習下見への相乗効果を図る。

また、レジデンス作家の展覧会や新収蔵品展などの企画を通して、陶芸の森の独自性を示す場として活用する。

ア. 陶芸館・新収蔵の逸品展

陶芸館の新収蔵作品から、古信楽や湖東焼、湖南焼など近江の古陶磁を紹介する。

＜開催期間＞ 令和4年4月9日(土)～24日(日)

イ. アーティスト・イン・レジデンス企画「湊茉莉」展

令和3年度ゲスト・アーティスト、湊茉莉氏のインスタレーション作品を紹介する。

＜開催期間＞ 令和4年4月29日(金祝)～6月9日(木)

ウ. アーティスト・イン・レジデンス企画「榎本佳子」展

令和2年度ゲスト・アーティスト、榎本佳子氏のインスタレーション作品を紹介する。

＜開催期間＞ 令和4年7月30日(土)～8月25日(木)

エ. 信楽窯業技術試験場との連携企画「新作ーガチャガチャ・干支シリーズ」展

試験場との連携により開発した新作の「ガチャガチャ・干支シリーズ」を紹介する。

＜開催期間＞ 令和4年9月17日(土)～12月18日(日)

オ. 陶芸館・新収蔵の逸品展

＜開催期間＞ 令和5年3月11日(土)～31日(金)(令和5年度へ継続)

2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業(AIR事業)）

国内外からスタジオ・アーティストの受入れや、ゲスト・アーティストの招へい等を行い、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させる。

また、国内外の類似機関との連携を強化し、陶芸家の派遣も含めた仕組みを文化庁の補助金を活用して継続実施し、陶芸文化について信楽から世界に向け積極的に発信する。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じたうえで、入国制限が解除された国々から受け入れを再開することとし、受入れを延期した作家たちを優先する。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ

令和4年度は、40名程度を受け入れる。また、陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を連れて、信楽町内の陶芸家やメーカーの工房見学を積極的に行うことで、信楽焼の担い手たちとの相互交流を活性化させる。

(2) ゲスト・アーティストの招へい

令和4年度は、11名のゲスト・アーティストを招へいする。また、ゲスト・アーティストの公募を行い、特に若手・中堅の優秀な作家の選考に努める。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

＜開催回数＞ オープンス・スタジオ等 7回程度

(4) 陶芸の森ギャラリー等を基点とした情報発信と活性化

陶芸館ギャラリーや創作研修館ギャラリーなどを基点として、滞在する作家の展覧会活動を積極的にを行い、レジデンス事業の情報発信に努める。また、フェイスブック等のSNSを有効に活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行う。

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外の機関との連携

- 文化庁の補助金を受け、陶芸分野における海外のレジデンス施設や陶芸団体などと陶芸家の派遣・受入れを行い、双方向の交流に努める。
- 海外の公的機関との連携強化を図り、フィンランド文化センター、台湾文化センター、香港 HKBU、Centre for Research and Development in Visual Arts, Academy of Visual Arts 等と共同で陶芸家の受け入れプログラムを組み、人的交流の活性化を促進する。

イ. 国内の機関との連携

文化庁の補助金を活用し、国内の陶芸、工芸関係のレジデンス機関との研究会や、招へい作家によるトークショーを開催して連携を深めるとともに、レジデンス事業の今後の運営について議論する。

＜ 会 場 ＞ 女子美術大学・東京都（予定）

＜参加機関＞ 滋賀県立陶芸の森、京都芸術センター（京都市）、
瀬戸市新世紀工芸館（愛知県）、益子国際工芸交流館（栃木県）

3. 「つつっこプログラム」／子どもやきものの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する。学校との連携プログラムをさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

また、「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携し、子どもたちや障がいがある人の造形活動に対して支援する。

- 連携授業の新規プログラムの企画
- 学校からの来園見学・制作プログラムメニューの充実
- 陶芸館を活用した連携授業の成果展の開催 など

第3 産業の振興に関する事業

令和4年度に信楽窯業技術試験場が陶芸の森隣接地に移転整備されることから、より一層の連携を図り、双方の強みを活かして陶器産業の振興等に繋げるため、協力して各種事業に取り組む。

1. 信楽窯業技術試験場との連携事業

(1) 試験場移転記念展に併せた取組み

試験場移転記念展「ジャパン・スタイル」に併せて、試験場に在籍し活躍した作家・熊倉順吉や、信楽で作品制作を行った作家・八木一夫らが、デザインを手掛けた干支をテーマとして、ガチャガチャグッズの商品化を試みる。

また、商品化された新作の干支シリーズについては、かつて試験場で試作された干支や、当時の写真・記録などを交えて、陶芸館ギャラリーで紹介する。（再掲）

(2) 試験場研修生に対する滞在アーティスト等による講座の開催

試験場の研修生に対し、アーティスト・イン・レジデンスで来館している作家や職員による座学を定期的に行い、アートやデザイン感覚等の向上を図る機会を提供する。

(3) 試験場の技術協力によるデジタルコンテンツ制作（再掲）

試験場のVR技術のノウハウを活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催を試みる。

2. 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し、下記の授業を陶芸の森で行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して地域での人材育成に努める。

授 業 内 容	実施時期	対象者
ア. 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ	令和4年9月頃	3年生：30人
イ. 野焼き体験実習	令和4年11月	1年生：80人
ウ. 茶道・陶芸体験などの実施	令和4年10月	1年生：80人
エ. 作家指導によるやきものの制作	令和4年9月～10月	2年生：30人
オ. 登り窯焼成実習	令和4年11月	2年生：30人

3. 若手陶器産業後継者等への支援事業

陶芸館ミュージアムショップの「がちゃがちゃ（カプセルトイ）」の商品開発等を目的に作品の公募を行う。

なお、デザインの優れたモデルについては、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入してミュージアムショップの「がちゃがちゃ」で販売し、若手陶器産業後継者等への支援の一助とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

来園者に対し、展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。

併せて、インターネットを活用したオンラインショップによる商品提供や、民間事業者と連携した企画実施により販売を促進する。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が自由に憩い楽しめるように公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。なお、利益の一部については、納入通知に基づき納付金として県に納付する。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料の薪を提供する。